



安曇野市コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報

No.1
令和6年5月9日(木)発行

地域学校協働活動についての情報提供

穂高東中学校より

4月19日のコーディネーター連絡会でお願いいたしましたコミュニティスクール事業、地域学校協働活動等にかかわる情報につきまして、穂高東中学校から情報提供をいただきましたので、お知らせいたします。なお、「朝の自主練習 見守り」につきましては、同校のホームページでも掲載されておりましたので、併せてご紹介させていただきます。

活動名	活動内容	参加者・人数など
交通安全見守り	生徒の登下校時に合わせて、自宅近くの街頭に立ち交通安全の見守り、声かけを行っている。	交通安全支援員 7名 時期：通年
交通安全教室での指導	学校の交通安全教室に参加していただき、一斉下校指導時に街頭で安全指導を行う。	交通安全支援員 7名 4月、8月の2回
朝の自主練習 見守り ※1	朝の自主練習の時期に、安全な活動が行われているのか見回っている。	部活動見守り隊 7名 4月～8月
家庭科 ミシン学習サポート	3年生が製作するハーフパンツの学習で、ミシン操作の補助に入っていた。1年生の授業にも今後入っていただく予定。	3名 11月～2月
地域連携防災学習	地区別生徒会で集団下校し、公民館で防災学習をする。地区長を中心とした地区の役員の方に、学習の指導をしていただいている。	9月2週目の月曜日

※1（穂高東中学校ホームページより）



朝の自主練習で心と技を磨く ～保護者の皆様、地域の皆様に支えられて～

今年度の朝の自主練習が4月9日よりスタートしています。生徒たちはそれぞれに、自分の課題に向け練習に取り組んでいます。

生徒たちが安全に安心して自主練習に取り組めるよう、早朝より、保護者、地域の方が見守り活動に来てくださっています。皆様、本当にありがとうございます。

生徒の皆さん、多くの方に支えられていることを忘れてはいけません。心と技を磨きましょう。東中生、Fight!



安曇野市コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報

NO. 2

令和6年6月7日(金)発行

三郷中学校より

マリーゴールドの定植

三郷中学校で、今年度からの新規の活動ということで、地域ボランティアの方々と学校代表生徒の皆さんで協力し、マリーゴールドの定植が行われました。



昨年度、地域コーディネーターの方から提案があり、社会福祉協議会で協力していただける方々を

募集し、集まった地域ボランティアの方々と生徒の皆さんとで、3色のマリーゴールドを12個のプランターに定植する作業を行い、昇降口に飾られました。

堀金小学校より

ボランティア全体会・打ち合わせ会

堀金小学校で、ボランティア全体会が行われました。同校には20のボランティアのグループがありますが、今回は年間通して支援をいただいている4つのグループ「おはなし宝箱」、「登下校の見守り隊」、「算数ボランティア」、「ベルマーク整理」の皆さん約40名にお集まりいただきました。



はじめに、学校運営協議会副会長と各ボランティアの代表の方々からご挨拶があり、続いて、児童会長や校長先生からのお礼の気持ちや今後の活動への期待やお願いが伝えられました。

ボランティア全体会の後、各ボランティアグループの打ち合わせ会がありました。「登下校の見守り」グループの皆さんの打ち合わせ会では、見守りの場所の確認をした後、ボランティアの皆さんで危険箇所などについての情報交換をし、駐在所員の方より危険箇所等についてアドバイスをいただきました。ボランティアの皆さんからは顔を合わせて情報交換することができよかったという声が聞かれました。





安曇野市コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報

NO. 3

令和6年6月28日(金)発行

穂高西小学校より

子どもたちへの支援について

授業などでの子どもたちへの支援について、「子どもの支援って具体的にどうすればいいの?」という声をお聞きます。穂高西小学校にご協力いただき、事例をご紹介しますので、参考にいただければと思います。

事例1) 先生の指示を聞いて、「さあ、やってみよう!」となった時、すぐに取りかかる子もいますが、なかなか取り組めない子もいます。そんな時、「この字、上手だね」「いっしょにやってみようか」等、声をかけてみます。困っている子に寄り添って声をかけることからスタート。「いっしょに・・・」「よくできたね」など、温かい言葉がやる気にさせます。



事例2) つらくなって? イライラして? 様々な理由で子どもたちは落ち着かなくなります。時には、教室を飛び出してしまうこともあるかもしれません。「だめじゃない!」「戻りなさい!」など、厳しく叱責するのが支援ではありません。「この人に怒られる」「何か言われそう」と感じると、子どもたちは不安になり、余計頑なになったり、逃げて行ったりしてしまいます。まずは、「どうしたの?」「何があったの?」など、子どもたちの気持ちに寄り添ってほしいと思います。子どもたちは、自分の気持ちを語り始めます。「これからどうする?」「何かお手伝いは?」など、語りかけてみます。「自分のことを心配してくれる」「本気で考えてくれる」と、子どもたちに感じてもらうことが、安心し、落ち着き、自分の気持ちを素直に出して、次の動きにつながっていくこととなります。

事例3) 子どもたちの集中力はそれほど長くは続きません。すぐに飽きてしまう、45分座ってられない子もいます。「座りなさい!」「ちゃんと話を聞きなさい!」よりも、「どうしたの?」「今は何をするとき?」と、問いかけてみてください。飽きてしまう原因の一つに、自分が行ったとをすぐに褒めてもらえないことがあります。「がんばってるね」「よくできたね」などの声かけで座る時間が長くなっていきます。

事例4) 子どもたちの様子を見ていると、気になる子が出てくる場合があります。そんな時、すぐに何とかしなきゃ!と、焦らずに、少し様子を見ているようにしてみましよう。「先生!」と、声を出していたり、こちらをチラチラ見ていたりするようなら、そっと近くに行って、「どうしたの?」「いっしょに勉強する?」のといったように、聞いてみましょう。難しく考えず、「いっしょに勉強してくれるんだ」と、子どもたちが思えば、きっと「ねえ、来て〜」「見て〜」などと、呼んでくれるようになると思います。





安曇野市コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報

NO. 4

令和6年7月25日(木)発行

堀金中学校より

地域活動・行事への子どもたちの参加・ボランティア

堀金中学校では、学校のホームページに「令和6年度 堀金 ふれあい祭り」や「第8回常念 フェスティバル」のチラシ、ポスターを掲載し、参加及びボランティア募集の呼びかけを行っています。地域活動・行事への子どもたちの関わりは、子どもたちの地域への関心を高める大事な場の一つだと考えます。コミュニティスクール事業関係の研修会で、「子どもたちの地域活動・行事への参画の形として、“参加→手伝い→企画”といったステップがあり、地域課題に対応しながら、大人も学び、子どもたちも生きる力が育つ」というお話をお聞きしたことがあります。市内のいくつかの小中学校などでもこのような取り組みを行っているということですが、地域の実情に合わせて、地域への関心を高め、関わりをもつことで、子どもたちの学びや育ちや地域づくりにもつながるような協働活動を進めていくことができると考えます。

【堀金中学校ホームページより】

社協ふれあい祭り ボランティア募集について(お知らせ)

例年生徒の皆さんにボランティア参加して頂いている「ふれあい祭り」
友達を誘って是非参加してみてください。
ボランティアに参加したい方は、後日配布される申し込み用紙に記入し、7/4(木)までに登録して下さい。
レッツ・ボランティア♪

常念フェスティバルについて(案内)

常念フェスティバルのチラシがきました。
中学生は今まで何回も参加しています。
是非、親子で足をお運び下さい。



安曇野市コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報

NO. 5

令和6年8月8日(木)発行

堀金小学校より

学校運営協議会の企画・運営で 寄席コン実施

堀金小学校で、学校運営協議会の企画・運営により寄席コンが行われました。ALTの先生によるライブ、堀金亭ぜっこうちょうダ！（校長先生）の創作落語、そして、金管バンド部の演奏があり、日ごろの練習の成果を発揮し、バラエティーに富んだ素晴らしい発表でした。当日は、200人を超える方が来場しており、参会者の方からは「先生やボランティアの方々にお世話になりながら子供たちは成長していきんだと思います。いつか生活や気持ちに余裕ができたらか何かお手伝いしたいなあと思いました」「頑張っている姿が見られてうれしい。遠くだと聞きに行くのが大変なおばあちゃんも気軽に見に行けるので楽しみにしていました」など、たくさんの方の声援や感想が寄せられました。

寄席コンは、学校のグランドデザインにある「地域とともに歩む学校」づくりの一環で、地域の方々に気軽に学校にお越しいただくと同時に、学校ボランティア募集を呼びかける機会として、昨年度より開催されました。寄席コンは、学校行事ではないため学校運営協議会が主体となり企画・運営しています。4月の1回目の協議会で日程等概案を決め、6月に学校だよりと地区の回覧板で地域に広報を行い、7月に寄席コン本番を迎えるという流れで行っています。地域コーディネーターはじめ学校運営協議会の皆さんの手作りによる運営なのであまり細かいことまでは決めていません。受付や誘導などの係分担は当日の朝に割り振りしたり、開演後は協議会のメンバーも参加者同様寄席コンを参観したりすることで、参会者全員がゆったりと楽しい雰囲気味わうことができていました。地域と学校がつながりを大事にして協働していく素晴らしい取り組みだと思えます。



裏面もご覧ください

クラブ活動の地域講師

「クラブ発足会」が行われました。自己紹介やクラブのめあての確認をし、お世話になる先生や「とんがりサポート」の講師の方に「よろしくお願いします」と、挨拶をしました。今年度のクラブは、フラバールバレー、ポッチャ、パソコン、ハンドベル、折り紙、パネルシアター、忍者です。

地域の方々との関係では、昨年度から活動内容、日程など、相談を始め、今年度に入って募集をし、参加をお願いしてきました。その中で、活動で大事にしたいこと、具体的な進め方などについて、地域の方々の意向、子どもたちや先生方の希望等を調整するための打ち合わせを行い、共通理解を図り、発足を迎えました。

実際の活動も始まっていますが、専門的な知識や技能をお持ちの地域の方々にご指導、ご支援いただき、子どもたちにとっても満足感があり、人気のクラブ活動です。さらに、子どもたちが顔見知りの方といっしょに活動したり、活動を通して知り合い、親しくなったりして、地域の方々との交流という意味でも充実した活動になることが期待できます。

発足会より



第1回クラブより





安曇野市コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報

NO. 6

令和6年10月8日(火)発行

豊科公民館より

百石堰クリーン大作戦

豊科南小学校の地域学校協働活動を紹介します。

学校の南側に、安曇野に昔から流れていた小川を再現しようと、平成5年に児童や先生、保護者、地域の方々が協力して作った百石堰があります。百石堰は、延長約110m、幅約15mで、拾ヶ堰(2016年に世界かんがい施設遺産に登録)から水を引いています。

豊科南小学校では、百石堰をはじめとするピオトープの環境整備等を「コミュニティ・スクール」の一環として地域と学校が連携して活動を進めています。

特に、百石堰の整備に関わる活動は、昨年度から百石堰クリーン大作戦(以前は、PTA作業)として展開しています。今年度は、5月のクリーン大作戦に続き7月28日(土)に、百石堰復活クリーン大作戦を地域企業の協力も得ながら、児童や先生、保護者、地域の方々により復活整備を進めることができました。子どもたちは、作業を行いながらアブラハヤやドジョウなどに目を向けていました。

そして、9月28日(土)にも「クリーン大作戦」の3回目が行われ、子どもたち、保護者、先生方、地域の方々約40人が、泥をさらったり石を集めたりして、子どもたちが親しめる環境を整えました。

【活動の様子 7月28日(土)】





安曇野市コミュニティスクール事業 地域学校協働活動情報

NO. 7

令和6年10月17日(木)発行

堀金公民館より

拾ヶ堰クリーン大作戦

10月2日(水)、拾ヶ堰クリーン大作戦が行われました。地域学校協働活動の一環として、堀金小学校の子どもたちとともに拾ヶ堰の清掃活動に取り組んでおり、今年度で4回目になります。

拾ヶ堰は、江戸時代の文化13(1816)年に開削された市内最大規模の堰で、平成28年には世界かんがい施設遺産に登録されました。しかし、不法投棄等によるプラスチックや空き缶といったごみが目立ち、時には自転車や家具等の粗大ごみが捨てられていることもあります。そのような環境を案じた堀金小学校5、6年の児童により“拾ヶ堰クリーン大作戦”と銘打った清掃活動が始まりました。活動には、拾ヶ堰の水利組合と安曇野市環境課の協力をいただいています。

地域活動の拠点である堀金公民館でも、「地域の自然環境を良くしたい！」という子どもたちの気持ちに心を打たれ、「ゴミを捨てるのは主に大人であり、子どもたちだけに任せておくわけにはいかない」という思いから、地域に向けて拾ヶ堰クリーン大作戦の情報を発信し、参加するボランティアを募りました。その結果、地域住民のみならず、地域外の市民の方、市外の方からも参加をいただき、子どもたちといっしょに活動を行ってきました。

年々ボランティアの方々の数も増え、保護者や地域の方々などボランティアの方々など約60名となり、小中学生約180名と合わせて、総勢約240人で、空き缶、ペットボトル、ビニール袋といった生活ごみ、タイヤ、物干し竿等の粗大ごみなど大量のごみを回収し、分別しました。活動中、子どもたちと地域の方々の会話も弾み、交流の場にもなったり、子どもたちがカニやドジョウなどの水生生物を見つけて目を輝かせる場面があったりして、有意義な活動となりました。

ごみの量は昨年度より減ってきたとのことで、継続した取り組みで拾ヶ堰がきれいになってきていると感じられたようです。「タイヤのような大きいごみがあってびっくりしました。たくさんで、重くて、においもきつくてたいへんだったけど、大人の人たちといっしょにがんばってきれいにできてよかったです」(6年児童)や「子どもたちはとてもがんばっていました。ともに地域の宝を大事する活動に参加できて、気持ちの良い汗をかくことができました」(地域ボランティアの方)などの感想が寄せられました。

これからも、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う取り組みを大切にしていきます。

